

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101616		
法人名	社会福祉法人 多宝会		
事業所名	グループホーム ほのぼの宝生園		
所在地	〒960-2155 福島県福島市上名倉字玉の木19番地4 (電話) 024 (594) 0063		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成20年10月4日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】 (20年9月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての 1 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,900 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 78 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島中央病院 乾歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

7年目の事業所であり、同法人が運営する介護老人福祉施設に隣接している。グループホームの廻りは田んぼや畑が広がっており、近くの農家から野菜等をいただくことが多い。職員は利用者本位に支援しているため、利用者は落ち着いて自分のペースで生活している様子が伝わってくる。利用者は自分のできることを職員と一緒に何でも行っており、職員は利用者が手伝ってくれたことに対して感謝の意を伝えている。運営推進会議の委員等から地域へのつながりが広がっており、利用者が地域行事に招待されたり、地域の方が事業所の行事に積極的に参加してくれたり、双方向の交流がされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の外部評価で取り組みを期待したいとされた「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、方針を作成し、利用者や家族へ説明し、同意を得ている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が評価の意義等を職員に伝え、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催され、委員の意見を運営に反映させ、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議の中で地域の婦人会から芋煮会の野菜の差し入れの申し出があったり、事業所の企画した日帰りバスツアーに参加希望等があり、地域の中で活動している様子が伝わってくる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎週、家族の訪問の際に、利用者の生活の様子や金銭管理状況を報告し、家族の意見等を求めるようにしている。また、運営推進会議でも家族の意見や要望を確認している。出された家族の意見等は申し送り等で情報を共有し、運営へ反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区行事(運動会、敬老会、文化祭等)に招待され、利用者全員で積極的に参加している。事業所の芋煮会や隣の介護老人福祉施設との合同夏祭り等に地域から積極的に協力が得られる。また、事業所のバスツアーに婦人会も参加してくれ、地域との連携が深まっているのが感じられる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来からの理念としての取り組みはできているが、地域密着型サービスとしての役割を具体的に表現した理念とはなっていない。	○	地域密着型サービスの役割を具体的に表現した理念として再構築する事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念を職員間で共有し、サービス提供の場において具体化しケアに反映されている。管理者は日々の支援の中でできるだけ理念を掘り下げて職員へ伝えるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の運動会や敬老会、文化祭等に招待され利用者全員で参加している。事業所の芋煮会は地域の婦人会の協力を得ながら準備し、また事業所の企画した日帰りバスツアーにも婦人会の参加があり、地域との交流が双方向で行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を共有しながら、前回の評価で取り組みを期待したいとされた重度化や終末期に向けた方針の共有は、方針を作成し、利用者や家族へ説明し、同意を得た。また、今回の自己評価は職員全員で取り組み質の向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催し、外部者からの意見を運営に活かし、サービス向上に向けて取り組んでいる。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎週、家族の訪問があり、利用者の日頃の様子、金銭管理等を伝えることにしている。通院結果等についてはその都度電話で報告している。さらに、ほのぼの通信を年4～6回発行し、行事等の写真を掲載し、家族へ送付している。		今後は、ほのぼの通信等の中に職員の異動も入れれば、さらに良いと思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族へ利用者の様子を詳しく伝え、家族の意見等聞き取るようにしている。運営推進会議において家族から出された意見も運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代には配慮しているが、止む得ない場合は利用者の動揺が最小限に抑えられるよう、十分な引継ぎ期間等を設け対応している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に職員を出席させており、出席した職員から報告がされている。さらに、事業所内勉強会を実施しているが、記録等で確認できないのは残念である。		今後は、事業所内研修会も記録に残しておければ、さらに良いと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に参加し、相互研修での事例検討を通して事業所外の意見や経験をサービスの質の向上へ活かす取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や料理、餅つきなどを教えてもらい、利用者と職員が一緒に行い、また、食事の準備や洗濯物干し等日常生活の中で利用者が出ることはお願いし、職員と利用者で支えあいながら行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中で職員は利用者と一緒に生活し、利用者の言葉を聞き取り、思い等を把握するようにしている。困難な場合は、家族からも情報を得、職員同士で収集した情報を話し合い、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の思いや意向を反映し、職員の意見を取り入れた介護計画書となっている。しかし、介護計画の援助内容が多く、短期目標の設定が達成可能な具体的な目標となっていない。	○	今後は、利用者の思いを基に利用者の生活の質(QOL)の向上につながる具体的な援助内容で、介護計画書として作成されれば、さらに良いと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護サービス計画は、家族の意向を聞き取り、利用者の状態変化を合わせ、検討会議で検討し、介護計画の見直しがされていた。見直した介護内容は朱記下線で表示され職員が活用しやすいしくみとなっていた。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は利用者、家族の希望に応じて支援している。職員が同行した場合の受診記録は通院ノートに記録をし、家族に報告をして情報の共有化を図っている。家族対応時は、職員がすぐに確認するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については職員も理解しており、入居時に対応方針を説明し、家族から同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーには十分配慮し、本人の誇りを損ねないよう声かけをしている。個人記録や個人情報はパソコン、書庫で適正に管理し、個人情報の保持に努めている。また、職員とは守秘義務に関する誓約書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側できめたことを押し付けるようなことはせず、一日の生活の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを尊重した支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食材等の買出しには利用者と一緒に出かけ、食事の準備や後片付けは各利用者が積極的に行っている。利用者ができることを取り上げないように支援している。また、職員も一緒に同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽は2つ設置されている。一つは両側から介助できるようになっており、もう一つは、片側が壁になっている。利用者の状態に合わせて浴槽を選び、入浴は利用者一人ひとりの希望に応じ対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	中庭での洗濯干し、来客時のお茶出し、掃除、料理等利用者の得意なことを把握し、一人ひとりが生き生きと生活できるよう、場面作りがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎日、食材購入を兼ねて利用者が交代で出かけている。天気や体調、個人の希望に合わせて、外食や遠方(猪苗代近辺)までドライブに行くこともあり、週に2~3回外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りできることを基本としている。外出の思いの強い利用者には頻繁に声かけをして見守っている。できるだけ鍵をかけない工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎月実施されている。夜間想定訓練も組み込まれ、併設されている介護老人福祉施設との合同訓練もおこなわれていた。災害時の備蓄もされており、AED(心肺蘇生用除細動器)も装備されていた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表により、毎食後、食事や水分の摂取量を確認し利用者の体調管理が出来るようになっている。また、地元より提供される季節感のある食材で食事を楽しんでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、開放的な空間となっており、気になる匂いは感じられない。玄関近くの利用者が集まる共用空間には、9人分の椅子がおいてあり利用者の好きな場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台が設置してあり、利用者が使いやすいように、それぞれTV、家具、椅子等を持ち込み、過ごしやすい居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームほのほの宝生園

記入担当者名 山家 敦子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。